

2026年4月 マンスリーレポート

夜間・休日ワンストップ窓口への相談事例

(治療を拒否する重篤患者への対応について)

ご相談内容：

同じ地域内の他院から紹介されて来院した訪日外国人患者について相談。

当院でこの患者を診察したところ、直ちに集中治療室での入院加療が必要な状態にもかかわらず、患者本人および同行の配偶者双方が治療を頑なに拒否している。

翻訳アプリを用い、このまま治療を行わないと死亡するリスクも伝えたが治療の同意が得られない。患者が死亡するリスクを承知の上で、治療を行わず退院させてもよいか、見解を伺いたい。当院でも「入院治療等の拒否確認書」は用意しているが、日本語のものしかなく、患者の母国語のものはないため、この確認書については患者の理解が得られていない。

また、患者母国の駐日公館への連絡がつかないこともあり、至急当院に国の職員および患者母国の駐日公館職員を派遣していただきたい。

対応内容：

当窓口から以下を案内した。

- まず、患者および配偶者に対し、治療拒否に関するリスクを丁寧に説明し何とか説得を重ねること。
- 翻訳アプリのみでは不十分なため、所在する地方公共団体が運営する「多言語遠隔医療通訳サービス」を利用して説得に当たるよう案内したところ、すでにご相談者が架電したものの利用できなかったとのこと。(理由未確認)
- どうしても患者が治療に同意しない場合は、厚生労働省が用意している[外国人向け多言語説明資料 一覧] (36)「入院治療等の拒否確認書」に患者母国語のフォーマットがあるため、それに患者および配偶者双方の署名をもらうこと。
- 当窓口から患者母国駐日公館の緊急連絡先に架電し、同国人から相談してよいか確認のうえ、ご相談者にその連絡先を伝え、患者から相談するよう案内した。
- 国の職員および患者母国の駐日公館職員の派遣要請は出来かねること。

以上

【お問合せ先】

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

RMS部 浦野

TEL 03-6371-1701 E-mail onestop@emergency.co.jp